
逆転パニック

和菓子屋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

逆転パニック

【Nコード】

N8962X

【作者名】

和菓子屋

【あらすじ】

いきなりバットエンドから始まります。

主人公の結城が願う幸せのさきにある未来は誰との隣？

この小説は逆ハーレムです

嫌いな方はご遠慮下さい

零日（前書き）

（注意書き）

逆ハーレムです。

ギャグ、シリアス混じってます

そんな美少女いるかって言う女の子でできます

和菓子屋の文才は0に近いです

誤字脱字を発見した方は御報告よろしくお願いいたします m（――）

m

零日

永瀬 結城（ながせ ゆうき）

佐々木原女子高校に通う2年

男っばい。

空手の有段者。

バスケット部に所属しているため夜に数時間のバイトをしている

交通事故にあって自称神様に会う

神様（自称）

結城を現世に帰した人

だが、格好が普通のオッサンっばいなので
神様っばくない

（威厳が完全に見えない）

永瀬 沙雪（ながせ さゆき）

結城の妹。親が再婚のため結城と血は

繋がってないが、本物の姉妹のよう

家事全般は沙雪がこなす文武両道な

完璧少女

沢田 悠真（さわだ ゆうま）

近くに住む幼なじみの男子

結城とは仲が良く高校に入っても

仲がいいままで、決して彼氏と

言う訳ではない

ついでに結城と同じバイト先。

初日〱壊れた日常〱（前書き）

ども。ボーイッシュな永瀬結城

次回からあたしたちが予告します

（てきとーに）

…ここまでにしてとりあえず本文どーぞ

初日く壊れた日常く

「お疲れ様でした!」

いつもと変わらない日常。

いつもと変わらないバイト

そんなものを終わらして今日も妹の待つ家に帰る

腕時計を確認すると時刻は、9時30を指していた

「今日も暗いなあ……」

「しょーがねーだろ?夜の方が時給もいいんだからよ……とりあえず、急いで帰ろうぜ」

結城と悠真はいつもと同じ道を自転車で帰った

人通りは普通。

街灯もある。そんな道

十字路を横断しようとした時、車のクラクションが聞こえライトが視界いっぱい広がった

ダーンッ

「結城っつ!」

悠真の声が、聞こえた

衝撃が来たと思ったらあたしの身体は中を舞った

そして地面に叩きつけられた

「結城ッ！しつかりしろ！！」

悠真の声がとおいにきこえる

身体が動かない

車に轢かれたのに、痛くない…

なんだろ…だんだん…目の前が…くらく…

そこであたしの意識は途切れた

初日く壊れた日常く（後書き）

誤字脱字、ご感想お聞かせ下さい！

2日〱神様〱〱(前書き)

はい、ども

永瀬結城です。

何か痛いひとがいます。何かこっちが頭痛くなりそうです…。()
()

2日〱神様？〱

闇に落ちたはずの意識がぷっかりと浮かび上がってきた
目を開けるとそこは真っ暗。
耳を澄ますとなにも聞こえない世界。

どこだここ…

「やあ。永瀬結城君」

スーツを着た中年くらいのおじさんが立っていた。
ん？今あたしの名前呼んだ？

「私は神だ」

「はい？えーと…あなた頭痛い人？」

初対面でいきなり神だとか言われたらこつ言つことを言ってもいい
と思う

「私は神だ。」

…あーそうか、神っていう名字なんだな

「こちら側の不具合で現世での君を殺してしまった…えーと…すま
なかつた」

神さんが、カンペっぱいものを片手に読んでいる

「まあ、これを見てくれ。確かに君は死んだんだ。」

目の前に映像が映し出された

そこには血塗れの悠真の姿

そして―あたしの身体は大変な事になっていた。

右手と左足は潰れ、頭から血がすごい勢いで出ていた

ああ、悠真はあたしの血で汚れてたんだ…

よかった。ケガなくて

「見てくれてわかったように君は死んだ。しかし、君はこんなところで死ぬ運命じゃなかった。」

「君の身体を蘇生しようとしたが損傷がひどく出来なかった。」

「まあ、しよーがないっしょ？」

そもそもがあんだけ身体ボロボロなんだから

「し・か・し」と、あたしに指を向ける

「女として蘇生は無理だったが、男としてなら蘇生が可能だった」

はあ、そうですか…って何言ってるの？

蘇生？生き返る？

それも、男！？

「流石にこのまま生き返らすと私の体裁悪いから願いを叶えて生き

返らしてあげよう」

当たり前だ。このやろつ。その前に願いつて言うのが気になった

「願いつ？」

「そつだ。お前の願いつは何だ？」

「あたしの願いつは…幸せになることだ」

自分でも平凡な願いつだと思つ。

でもいつもの平凡な日々があたしにはあつてゐる

死んでしまつたあたしに出来なかつた未来を見たい

それが女じゃなくても

「よし、分かつた。これからの未来何かしろの幸せを叶えることを約束しよう。」

「どーも」

ズルズル…

？

何か変な音が…

そこには神さんが巨大なハンマーを引き下げてきた音だつた

「じゃ、また頑張つて、今から現世に戻すから」

そして神さんが巨大なハンマーを大きく振りかぶって…笑いながら

「生き返れ」

「ギャアアアー!!」

あたしの頭にクリーンヒットした
そして、意識はまた闇に沈んだ。

3日目〜目覚め〜（前書き）

ども永瀬結城です

意外と毎回疲れますね…

そんなことより身体に変化がっ！！

3日目〜目覚め〜

「ゆ……ゆう……結城っ！」

誰かがあたしを呼んでる声がした

大丈夫。朝でしょ？

わかってるって

今、起きるから

「おはよう」

目の前には、妹の紗雪がいた

目は泣きすぎたのか、赤く充血し、腫れていた

「ゆーき？」

紗雪はあたしを見ると泣きだし、抱きついてきた

「紗雪！？」

流石に驚くあたし

でも、ちよつと冷静なあたしが周囲を観察した

一面清潔な白で塗りつぶされた世界。

そして、あたしの腕についている機械らしきもの
最後に微かに、薬臭い

この3つの事からここは病院ということが何となくわかった

「ゆき姉は…何で生きてるの…？」

弱々しい声だった。

そして

それが本当にあたしが、一回死んだという事を自覚させられた。

「ゴメン、紗雪。でも、戻ってきたよ」

「ゆーきっ！」

抱き付かれ思いつきり泣かれた。

こんなにも心配させていたんだな…

申し訳ない気持ちでいっぱいになった

それから少したって紗雪が落ち着きを取り戻した。

「私は病院の先生呼びに行ってきます」

紗雪がいつもの敬語口調になった

いつもと違う口調の紗雪にドキドキしたって事は内緒だ

それから、病院内は大騒ぎ。

心臓が完全に止まった人間が生き返ったと言うことで、あたしは今、検査室につれ回されてる。

そして、1日かけて検査が終了した

「今日はとりあえず泊まって行ってください」

看護師さんにそうわれた

家にかえりたい…

4日目〜身体の異変〜（前書き）

こんにちわ。永瀬紗雪です。

ゆき姉が寝てしまったようなので今回は私が代わりに予告？です。

正直言ってコレ今から読むのにいるのですかね

それは、さておき、ゆき姉の体たらくですね

もう…だから私が学校休むって言ったのに

（時間の都合により紗雪のお小言カット）

それでは、4日目どうぞ

4日目〱身体の異変〱

朝：が来て、普通に目が覚めた
何となく四肢を動かすと、うん、大丈夫。痛くない

「おはようございます。永瀬さん」

しばらくボーツと過ごしてたら医者が入ってきた
片手には、カルテらしきもの
そして、何かのプリント紙が見えた

「検査結果が出ました。あなたは、以前性別は女性でしたよね？」
確認事項なのか…医者が聞いてくる

「はい、まあ女子高通ってるくらいに女ですよ」

「……………身体が18歳くらいの男性の物に変わっています。」
それから、さつき見たプリント紙を渡され詳しい結果を聞いた

身体には問題はない
筋肉量、生殖器、ホルモンが18歳くらいの男のものになっている
くらいだった

原因は不明。
医者も頭を抱えていた

とりあえず身体には影響ないって事がわかったんで、退院？させて

もらうことにした

久しぶりの、我が家。

あたしの家はマンションだ

防犯、防音などと言ったものは完璧な処。

両親は早くに亡くなったから、両親の遺産でマンションの一室を買った

まあ、それがあたしと紗雪の家だ

何にもしてないけど、とりあえず疲れたあたしは家に入ってソファ
ーに寝転がって寝ることにした。

5日目〜紗雪〜(前書き)

ども永瀬結城です

眠たいです。今回は妹の紗雪目線で送りたいと思います
では、5日目どござー

5日目 紗雪

家に帰ると、ゆき姉の靴が既に置いてあった
何だかちよつと安心して靴を脱ぐ私。

「ただいま帰りましたー」

？

返事が返ってこない？おかしいなあ…

いつもなら「お帰り紗雪っ」ってくるはずなのに…

私はあの日を思い出しました。

バイトから帰ってこなく悠真君からの切羽詰まった電話

事故？

ゆき姉が？

私の目の前は真っ暗になりながらも、急いで病院に駆けつけました。

そして、見たゆき姉の姿

ゆき姉は搬送された病院で冷たくなっていました。

血は繋がってないけど、最後の家族。

イナクナツテシマッタ

でも、奇跡がおきて、亡くなったハズのゆき姉は生き返りました

またいなくなるかもしれない…

私の中で、そんなイメージを消し去りました。

今は、ゆき姉は生きている

それだけを信じて。

リビングに入るとすぐにゆき姉を見つける事ができました
ソファアで気持ち良さそうに寝てました

「スウスウ…」

「可愛い…」

紗雪の顔は少し赤くなっていた

しかし、紗雪はする事を思い出した

「ゆき姉」

ゆちゆち…

身体をさすってみる

……起きない…

「ゆき姉!」

さっきより強めに揺すってみる

「んあ？」

反応がありました

「ただいま帰りました」

「紗雪、お帰り」

ふにゅと笑い、私が持っていた買い物袋を見ました

うっ…不意打ちですか…可愛すぎます…

「いつもより量多くない？」

私の持っている荷物（食材）を見て言いました

「えーとですね…」

バーン（いきなり扉が開く音）

「結城！元気かい」

元気な声が部屋に響いた

5日目〱紗書〱(後書き)

誤字脱字などありましたらご連絡ください

そして、毎回読んでくださりありがとうございます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8962x/>

逆転パニック

2011年11月28日07時45分発行